



中海テレビ放送は昭和 59 年に設立され、その後 5 年の準備期間を経て、平成元年 11 月 1 日 11 時 11 分に米子市の一部エリアを対象に放送サービスを開始し他にもインターネットプロバイダ事業、固定電話事業、通信事業、電力事業を行っています。放送事業では、令和 2 年に 20 年に渡る中海浄化の取り組みを追ったドキュメンタリー番組「中海再生の歩み～市民とメディアはどう関わったのか～」が第 57 回ギャラクシー賞 報道活動部門大賞を受賞いたしました。同年 12 月には、国連が世界の報道機関に協力を呼びかける「SDG メディア・コンパクト」に加盟し、地域における SDGs の啓発と 17 の課題解決に向けた取り組みを推進しております。スタッフの半数以上は女性で、中海テレビ放送にとって、その柔軟な発想力、きめ細やかな心配りなど、大きな力となっています。産休・育休、家族の介護が必要になった際の休日取得制度を導入し個々の力が存分に発揮できるようサポートもしています。



【新たな取り組みについて】

新社屋の設立を企画しており、2025 年に完成を予定しています。充実した制度で今の時代に合った働きやすい環境の整備に努めており、地域の方々にもより利用していただけるような社屋を目指しております。

代表インタビュー

【心がけていること】

電力事業では、令和 3 年 10 月から「Chukai 電力」の新プランとして、ご要望を多く頂いていた「オール電化プラン」を開始。また同月、Chukai 電力はエネルギーの地産地消と、電気料金の地域内循環に貢献している点が評価され、「2021 年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。電力事業での受賞は非常にまれだそうです。これもご利用頂いている地域の皆様のおかげだと感謝しております。今後も「Chukai 電力」を通じたメンバーシップの輪を広げ、「エネルギーの地産地消」を推進いたします。



代表取締役社長

加藤 典裕さん

【社名について】

中海テレビ放送という名前については、私が入社した時すでに社名は決まっており、先輩から聞いた話では「米子ケーブルテレビ放送」に最初は決まりそうでしたが、エリアが米子市だけではないので「米子中海テレビ放送」の候補が出たそうです。そのときは、中海を「なかうみ」と読みましたが発起人で議論をしたり、有識者に相談したりして、最終的に「ちゅうかい」が力強いという理由から「中海テレビ放送」に決定したそうです。創業当初は、会社のコンセプトやキャッチコピー、ロゴマークなどをつくり、開局が近づくと番組メニューと料金体系、課金システムなど様々な業務に取り組んでいました。



— [会社概要] —

地元企業や行政、個人の方々など、地域の皆様に支えられて誕生した中海テレビ放送。地元密着の放送はもちろん、インターネット・固定電話・モバイル・エネルギーの地産地消をコンセプトとした電力小売り事業など常に地域のニーズを先取りし、形にしてきました。



会社HP：<https://www.chukai.co.jp>



会社名：株式会社中海テレビ放送
 業種：情報通信業／放送業
 設立：昭和59年11月20日
 従業員数：79名
 代表：加藤典裕
 場所：鳥取県米子市河崎610

社員インタビュー

所属：未来創造本部営業部営業一課

嵯峨根 緑さん【入社して1年】



＼＼ Q 入社を決め手 〳〳

京都出身で大学も東京でしたが、オンラインでの説明に参加した際に会社の雰囲気が柔らかく皆さんがとても優しくったことが決め手です。初めは地域ごとの名前を覚えるのにも苦戦しました。

＼＼ Q 社内の雰囲気はどのように感じますか 〳〳

社員全員があたたかく年齢層も近い方が多いのでやりやすい環境です。

所属：メディア創造本部報道部

清水 寛大さん【入社して1年】



＼＼ Q 中海テレビを選んだきっかけ 〳〳

第1希望がメディア関係の仕事で様々な会社を見ていくうちに中海テレビ放送は地域の方々に密着した番組を作っており、出身が西部地区であることから大好きな地元の方に密着をした仕事ができればいいなと思い入社しました。

＼＼ Q やりがいを教えてください 〳〳

ニュースの中のテロップでその日に取材した人の名前が出るのでそれが初めて出たときは嬉しかったですし、撮影の取材先に行くと記者の名前を覚えてくれていたりするので地域の方が見てくださっている実感を得られるところです。

＼＼ Q 入社してから今までで印象に残ったことはありますか 〳〳

ミライノプロジェクトという入社1、2年目の社員を中心とした現在働いている人材、また未来の人材が会社・地域に根付く施策を実施しようと、2019年に採用担当者が立ち上げたプロジェクトも行っており、新入社員が上げた声でも風通し良く実行に繋がっている社風や部署が分かれることで横の繋がりがなくなってしまうように定期的に集まり情報交換をする場として設置されているところが素敵であると感じました。

＼＼ Q 新社屋に期待する点を教えてください 〳〳

リモコンやテレビ、スマホの使い方がわからないというお客様の来社が多いのでそういう方がひと目で分かるような分かりやすい社屋になってほしい。また、オンライン会議が主流となり社内でも会議をする事が多いので綺麗で使いやすい会議室になればいいなと思っています。

所属：未来創造本部営業部広報課

牧野 衣里さん【入社して2年】

学生インタビュー

中海テレビ放送については YouTube など様々なメディアで見ることが多く沢山の取り組みを行っている企業だと感じたので取材を試みたいと思いました。

もともとメディア関係に興味はなかったのですが、実際に社員さんの話を聞き、地域の方々と関わりながらの番組作成や案内・情報発信などをされており地域に欠かせない企業であることが分かり社員の方々が楽しそうにお仕事をされている印象が強くインタビューをしてより一層興味が湧きました。

テレビの裏側を肌に直接感じる事ができ感無量でした。こうやって普段自分が見ているものが出来ているのだと思うと非常に興奮しました。自分の将来のビジョンを広げる貴重な体験になりました。

お話を聞き、スタッフの方々が無駄のない動きをされていることにとても感動しました。

テレビ局、番組制作について多くのことを学んだ1日でした。

中海さんの中でも様々なことを行っていることを知り、番組制作だけでなく地域の方との交流をするための取り組みや地域に貢献しようという姿が知れてよかったです。

これを機に地域の話題についても興味が出ました。



会社説明時の様子



社屋にあるアンテナ



【取材学生】 地域学部地域学科:3年生
工学部社会システム土木系学科:3年生

編集後記

若手社員さんに取材するうえでメディアだけでは知ることの出来なかったエピソードや仕事に対する思い・地域との関わり方について取材を通して聞くことができ、学生がもっと知りたい、触れてみたいと思うような対談ができたと感じています。

学生も事前に多くの質問を用意しており、時間いっぱいまで事前質問や会話の中で出てきた内容の深堀りをし、素晴らしい時間を過ごすことができました。

決して一人で出来る仕事ではないこと、地域の方がいるからこそ出来るサービスであることを私たちも知れました。